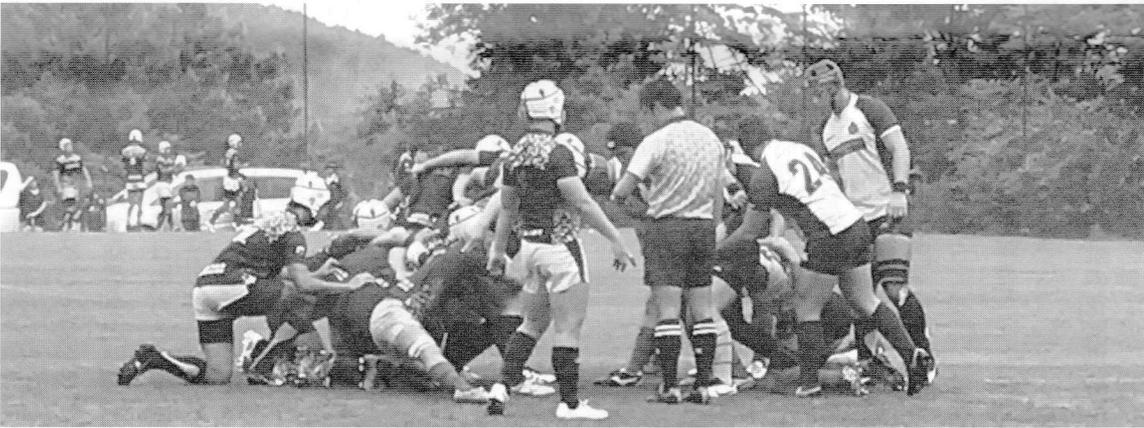




平成29年決勝



菅平合宿

# 秋エラガー

発行者

秋田工業高校ラグビー後援会

事務局 (018) 862-1256



## 金足農業に続け

秋田工業高等学校ラグビー後援会

会長 瀬田川 榮一

暑い夏の主役は県立金足農業高校であり、その余韻は今も続いている。

私は以前決勝で対戦した大阪桐蔭高校を訪問し、その凄さを当時の寺川校長先生に聞きに行ったことがある。

スポーツで勝つにはいくつかの要素があるとされている。その第一は選手の手能力、よくスター性とも言われる。第二に指導力の力量である。第三に練習量であり、第四は選手が育つ環境と思われる。

あえてこれらをテーマにしたのは、わが秋エラガー部と金足農業野球部、そして大阪桐蔭(野球部もラグビー部も強い)と比較してみたいと思ったからだ。

まず選手は、いずれも秋田県内の生徒で入学当初はそれほどスター性はない。あっても県内では「そこそこ」であろう。全国から優秀な選手が集まる大阪桐蔭高校とは大きく違う。

第二の指導者についてであるが、これも公立高校の中から選任されたわけでそんな大きな差はないように見える。前述の寺川校長も大阪桐蔭野球部監督は元々桐蔭の先生で他からスカウトしてきたわけでもなく、自分で勉強して今日に至っていると話してくれた。

第三の練習についてだが、報道で知る限りではあるが、これには大きな差

があるように思える。とりわけ金足農業高校野球部の練習量はすごい。そして極めてひたむきだ。これがこの夏の主役を演じた大きな要因と私は思う。

よく量ではなく効果的な練習が大事と言われるが、「それは練習をしないための言い訳だ」と大阪桐蔭の元校長が秋田での講演で話されていた。「練習は苦しい、だから選手も指導者も妥協してしまうのだ。」と。

第四の環境についてであるが、これはお互い努力するが公立高校スポーツではいかんともしたがたいものがある。大阪桐蔭の強さは寄宿舎生活で丸ごと野球づけ(ラグビーも同じ)ができていた。資金的にも豊富と聞いている。

こうして比較してみると残るのは練習量の差が特筆されてもおかしくない。金足農業高校野球部も秋田工業高校ラグビー部も同じ高校生であり何も違わない。しいて言えばひたむきさと練習量の差ではないかと思われる。

今しかない青春を妥協せず、どこにも負けない練習量で十六度目の全国優勝を目指してほしい。

ガンバレ秋エラガー、金農ができて秋工ができない訳がない。先輩達はやり切ってきたから十五回の全国優勝をやり遂げてきたことを忘れないでほしい。